

2) 全身性エリテマトーデス

独立行政法人国立病院機構大阪南医療センター

アレルギー科医長 片田 圭宣^{かただ よしのり}

全身性エリテマトーデスは、英語では systemic lupus erythematosus といい、頭文字をとって SLE と呼ばれます。自己免疫疾患の中でも全身の様々な臓器の多彩な症状を引き起こす可能性がある病気で、個々の患者さんの症状は大きく異なります。発熱、全身倦怠感、皮膚、内臓の症状に加えて、関節の症状もしばしば出ます。病気の原因は今のところ分かっていませんが、免疫の異常が重要であるとされ、血液検査では高頻度に自己抗体が検出され、診断は症状と血液検査結果などを織り交ぜた国際的な基準によって行います。

発症時によく多関節痛がありますが、関節リウマチとは異なり骨のびらん（骨の皮質の虫食い症状）や破壊は起こりませんので一般的に年月が経過しても関節変形は起きません。例外的に、手指関節の亜脱臼が現れるジャコウ（Jaccoud）関節症や、大腿骨頭などの骨壊死、治療に関連して骨粗鬆症による骨の変形などが起こる場合があります。

治療には関節リウマチより多量のステロイドホルモンや免疫抑制剤が必要になることもあり、関節リウマチとの鑑別が重要です。

これらを含め SLE について簡単に解説します。

講師紹介

昭和 61 年鳥取大学医学部卒、大阪大学付属病院第三内科研修医、大阪第二警察病院内科、大阪大学医学部第三内科、国立大阪南病院内科アレルギー科医長を経て、現在、独立行政法人国立病院機構大阪南医療センターアレルギー科医長、同付属大阪南看護学校講師

医学博士（大阪大学）、日本内科学会認定医、日本内科学会指導医、日本アレルギー学会専門医、日本アレルギー学会指導医、日本リウマチ学会専門医、日本リウマチ学会指導医、日本リウマチ学会評議員、産業医資格、BLS, ACLS 修了、臨床研修指導者養成価値講習会修了、国立保健医療科学院臨床試験に係わる臨床医向け生物統計学研修修了